

令和7年度 第1回碧南市民図書館協議会 会議録

1 日時

令和7年7月17日（金） 午前10時～午前11時20分

2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

3 出席者

(1) 出席者

宮本美枝子、杉浦あさの、角谷竹虎、山岸芳樹、石川文也、小島逸男、三島晴子、酒井宏樹

(2) 事務局職員

教育長 小澤徹、教育部長 岡本和雄、生涯学習課長 金原厚夫、市民図書館館長 大橋幹広、市民図書館副館長 長谷川有里
南部分館長 関由香、中部分館長 長田和子

4 傍聴者 0名

5 協議会内容

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 議題

①令和6年度図書館の事業実績について

事務局：冊子資料『碧南の図書館2025』をもとに説明

定例行事の他に、職場体験や図書館訪問の定期的な受け入れ、ブックトークなどの学校訪問、生涯学習講座にも出向き他の施設との連携をしている。

本館で開催した中学生以上を対象とした「はじめましての俳句講座」は、受講者を中心にした読書グループができ、毎月図書館で活動するまでに至った。雑誌・リサイクル本の無料配布では碧南高校のボランティア部の生徒に協力してもらった。中高生にも職場体験、ブックトーク、ボランティアの受け入れなどを通して、図書館の魅力を伝えたいと考えている。

南部分館では、去年はパリオリンピックが開催されたことにちなみ「オリンピッククイズ」を行った。また「おいしいもののおはなし会」を和室で開催した。また、貸出実績は前年度比98.2%となっている。少子化が影響しているのではないかと考えている。今後も本館まで行きにくい人たちが利用しやすい身近な図書館として、読書推進を図っていきたい。

中部分館では、まずは6月に就園前の子と保護者を対象とした「おひぎにだっこのおはなし会」をスペシャル版「みんなでこうつうあんぜん」として、警察署と連携して開催し、62名の参加があった。初めて来館する方もおり、中部分館を知ってもらう良い機会になった。11月には「今日の1さつお読

みします」と題して、「おはなし会」の縮小版として、日や時間を決めず、1組からを対象として開催した。期間中79回実施し、計205名の参加があった。2月に「大人のためのミニ工作教室」を開催したが、作り方を掲載した本の貸出に繋がったため、イベントをうまく利用しながら本の利用を促進していきたい。

②令和7年度図書館の関係予算について

事務局：冊子資料『碧南市の図書館2025』をもとに説明

「7報償費」であるが、金額は160,000円で増減はない。説明欄にある講師謝礼等とは、「音声訳ボランティア活動養成講座」と「読み聞かせ研修会」のボランティア活動推進活動の講師謝礼である。

「10需用費」のうち「消耗品費」が対前年度比131.1%、約400,000円の増額となった。本館のPC席専用席の増設分の約290,000円と中部分館の消火器取替16本分の費用である。また「施設修繕料」が前年比231.5%、約1,300,000円増となっているが、中部分館の「低濃度PCB含有量検査及びコンデンサ更新工事」や「変圧器絶縁油交換」等の設備に関する修繕の費用である。

「13使用料及び賃借料」のうちOA機器等賃借が前年度対比110.3%となっている。令和7年2月に図書館システム機器更新を行い、その際、契約期間満了となった使用料、賃借料を、新たに契約締結したが、物価上昇等によりシステム使用料が増加したことが要因である。

「17備品購入費」であるが、こちらに入っている資料購入費は、今年度はやや減少となった。「その他」は資料以外の備品を購入するものだが、今年度は「その他」で購入予定のものはない。

訂正だが、「10需用費」の「消耗品費」の説明に追録が記載されているが、図書館では現在、追録は購入していない。

【質疑応答】

会長：利用者層が3館それぞれ違うと思うが、各館で特色を出すためにどんな工夫をしているのか。

南部分館長：3館の中でも一番小さい図書館で、アットホームな雰囲気があり、地元の方に親しみを持って使ってもらっているという実感がある。棚に限りがあるので、各分野の導入となる本を置くようにしている。小説はたとえ本館にあったとしても人気作家の著書は入れ、実用書は本館では所蔵していない、その分野の指標となるような本を入れるようにしている。

中部分館長：1階のフロアにしか本がないという図書館だが、限られた空間であるからこそ本が選びやすいという利用者もいる。実用書はその分野の導入になるような本、小説では人気作家の著書を入れている。利用者としては、園の帰

りだと思われる親子連れが夕方には多くなり、子どもたちが楽しそうに本を選んでいる姿が見受けられる。また、利用者にきめ細かい対応ができるのが分館の良いところだと考えている。

市民図書館：職員で努力で棚に資料がきれいに揃っているところは自慢である。他市の館長 利用者からも利用しやすいという声も多くいただいている。

市民図書館：本館では利用者から高度なレファレンスを受けることがある。利用者はあ副館長 る程度インターネットなどを使い基本的なことは調べた上で、図書館へ質問をしてこられるため、身が引き締まる思いで対応している。また、こういった利用者からの専門的な質問にも答えられるような信頼のおけるレファレンスブックを充実させることが課題である。

A委員：中部分館や南部分館では司書職員が2名しかいないとのことだが、様々な行事や日々の業務を遂行するには2名という人数ははたして適正な人数であるのか。

中部分館長：行事が重なってしまうときは忙しいときもある。

南部分館長：限られた人数のため無理せず読書推進をするようにしている。

課長：資料には正規職員の人数しか載っていない。次回は会計年度職員を入れた資料を作成するなどしていきたい。

会長：講師の費用はどのように決めているのか。

市民図書館：他の施設で行ったときの費用を参考にし、講師と相談して決めている。

館長

会長：最近では退職後に自分史や地域の歴史に関する本を出版される方も増えていると感じる。以前は自費出版の補助があったと思うが。

市民図書館：現在は自費出版の補助は行っていない。市民の方が出版された本は図書館館長 で寄贈などをお願いして所蔵するようにしているが、その本に対しての補助は行っていない。

B委員：消耗品費にあるコピー料等が前年対比で50%となっているが、どのような工夫をしたのか。

市民図書館：ペーパーレス化を進めているためである。余分なものはコピーしないよ館長 にしている。

C委員：図書館で本を購入するための基準はどうなっているのか。

市民図書館：毎週行う選書会議にて本館、各分館の職員が集まり決めている。各分野館長 の過去の利用実績や蔵書冊数を調べながら図書館の選書基準に合わせた本を選んでいる。また、市民からリクエストを受けた本も購入するか検討している。

D委員：感想にもなるのだが、図書館には授業に合わせた本を提供していただけるし、相談にもものっていただける。職場体験では生徒たちの人気の職場でもあり、図書館にはお世話になっており大変ありがたい施設である。

読書感想文は市内の多くの小中学校で宿題として出されていると思わる

が、読書感想文を書くために参考になるような本のリストや特設コーナーはあるのか。

南部分館長：図書館では毎年、幼児、小学生低学年、中学年、高学年、中高生のそれぞれの年代に合わせた本のリストを作成している。また各館の特集コーナーにてリストで紹介した本を展示している。リストがあってもなかなか本が選べない子には職員が声を掛け、本を紹介するなどしている。

E委員：令和7年3月よりホームページがレスポンスWebデザイン式になったとのことだが、これには費用がどのくらいかかるのか。また、レファレンスに生成AIは導入していくのか。また、利用者自身がレファレンスができるようになるシステムの構想などはあるのか。

市民図書館：ホームページリニューアルに関する費用であるが、いろいろな機能を付
館長 けるとやはり割高になっていく。生成AIはこれから発展していく分野
だと思われる

南部分館長：AIについての補足をしたい。今のところAIに適切な問いを投げかけないと適切な回答を得ることができないというのがAIの現状である。図書館を取り巻く状況がどうなっているのかを利用者にしっかり伝えていくことが重要であると考えている。

F委員：先日、レファレンスサービスを利用した。インターネットで調べても全くわからなかったことが、職員より提供された図書館の本で調べることができた。AIでも及ばないことがまだあり、人の力でないと調べたいことの手がかりを見つけられないこともある。

会長：利用者は調べ方がわからないという方も多いと思う。司書がうまく調べ方を導いていけるようにできるとよいと思う。

課長：これで令和7年度第1回碧南市民図書館図書館協議会を終了する。次回の第2回図書館協議会の日程については令和8年3月を予定している。